新たなものづくりの地域連携を創造

●未来産業創造おおさき理事　片瀬　弥生さん 明治合成株式会社　代表取締役

地域連携でものづくり

明治合成は、精密プラスチックの金型設計から製作・成形加工・塗装・印刷・レーザー加工・組立まで一貫した生産をしている会社です。

一時は仕事が減って大変でしたが、今は、六割から七割まで回復してきました。

しかし、一つの企業だけでは、努力にも限界があります。大崎には電子部品の関連会社がたくさんあって、ものづくりができる地域であるにも関わらず、これまで大手メーカーから受ける仕事に頼りきっていたために、地元企業間での横のつながりというものがありませんでした。

中小の企業では一つの製品の一部分しかできなくても、一つ一つの企業には得意とする分野があり、金型から加工・プレス・組み立てまで、連携すれば、製品づくりのすべてを市内でこなせるほどの潜在的な生産力があります。一連の仕事を受ける連携のとれた地域となれば、大崎市のセールスポイントになります。

未来産業創造おおさきで、大崎市にある企業の力を結集して、連携して仕事を獲得して、地域ぐるみで利益を上げられる企業の体質づくりができればいいと考えています。

これまで大崎市は米や農産物のイメージが強くて、こんなにたくさんの工業製品や電子部品を生み出している土壌があるのに、そうしたイメージが薄かったと思います。

先日、ある就職支援の会合に出席して、地元の人でも地元の企業のことをあまり知らないという実態を目の当たりにしました。企業の認知度を高めていくことは、仕事を請けるだけでなく、よい人材を集めるためにも大切です。

その意味からも未来産業創造おおさきが真っ先に取り組もうとしている「産業フェスティバル」で大崎市の内外にアピールして、特にこれから宮城県に進出を考えている企業に、「大崎市にはこんなに仕事を請けてくれるところがあるのなら、ぜひ大崎市に進出したい」と言わせるくらい積極的に情報発信していく、それが私の考えている未来産業創造おおさきの姿です。

交流と人づくり

もう一つ、未来産業創造おおさきに期待しているのは、人材育成です。

古川商工会議所と市が開いたトヨタ生産方式の取り組みを学ぶ生産性と品質向上のためのカイゼン研修では、とてもよい貴重な経験ができました。一緒に参加した他社の人も口をそろえて「他の工場を見られてよかった」と言います。今まで、さらっとした工場見学はあっても、異業種の会社が工場に入って「うちの工場ではこの部分が困っている」と本音で話し合う研修はありませんでした。競合する部分もあるので、すべてをオープンにすることは難しいけれど、新しい技術を磨き、人材を育成するために交流は必要だと思います。

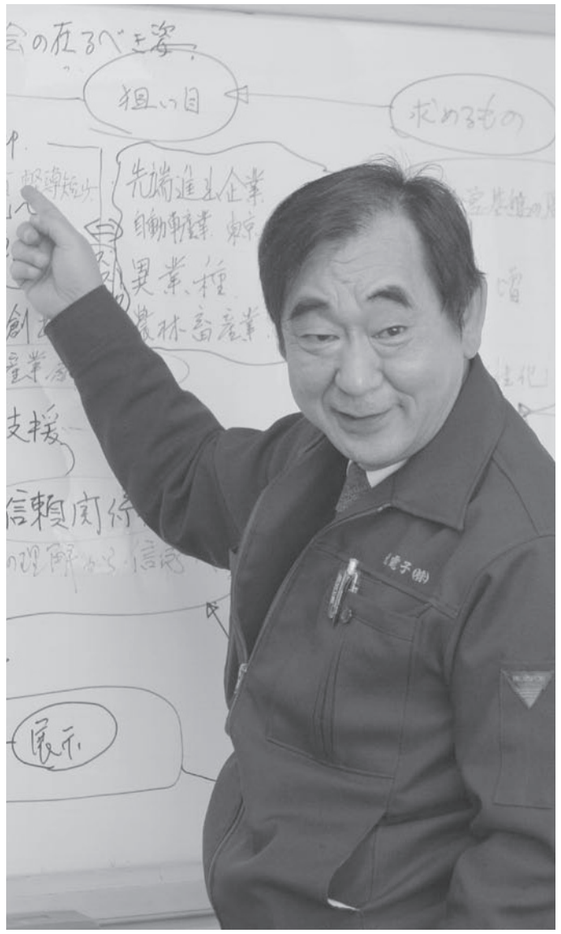
未来産業創造おおさきでは、新しい技術を大学や研究機関と連携して研究できるプログラムもあるので、会社の若手、中堅社員をこれから育てていくために重要な役割を担っていくと思います。

限られた地域の中だけで仕事をしていたのでは、仕事の質も量も限られてしまいます。

連携した体制で外からの仕事をどんどん引き受ける、新しい仕事の流れをつくりだすことも、産業を創造していくことにつながることだと思います。

アイデアは無限の可能性

●未来産業創造おおさき理事　加藤　敏明さん 光電子株式会社　代表取締役



技術を生かして新分野開拓

光電子は、東光株式会社岩出山工場の撤退を受けて、平成元年に東光から分社・独立しました。現在でも東光に納める製品の製造が主ですが、東光の負担軽減のため、これまで培ってきた電子部品の設計、製造を長年手掛けた技術を生かし、研究開発・商品設計・生産活動と総合的にサービスを提供しています。

企業は人で成り立ち、人は地域の中で暮らしています。その地域に将来がなければ企業の将来もありません。企業は地域にあってこそ地域に貢献できます。地域に根ざした企業というわが社の生い立ちが、未来産業創造おおさきの理念と重なっています。

不況のあおりを受けて製造業界も厳しい状況にあります。日本には高い技術があっても、部品は海外で作られる。大手企業にとっては、海外に生産を移し業績を上げることができれば、メリットはあるのでしょうが、国内にある中小の企業はますます追い込まれてしまいます。

その中で、日本でものづくりを続けていくためには、どのようにすればよいのでしょうか。これまで高めてきた技術を基に新たなものを創造できれば、大きな力になるはずです。私は、世界に冠たる日本の工業技術が異業種の分野では生かしきれていないのでないかと感じています。

アイデアを持ち寄って

産業創造というと大掛かりなものを想像してしまいますが、まず小さいことでもいいから一つでも二つでも具現化していくことが大切です。

たとえば、それぞれの分野において仕事をしていく上で困っている事、負担が大きい事や低価格化のための課題などでも、解決策を講じるための手法に工業の技術が加われば、実現の可能性が高くなるはずです。農産物の安全性や、品質を測定できる機械があれば、付加価値を付けることができ、新たなブランド力を高めることができます。

単独の企業では、研究・開発やニーズ調査にコストをかける余裕はないので、目の目を見ることがなかったアイデアでも、未来産業創造おおさきなら、まさに創造の場としてもってこいの場所です。

今まで接点の少なかったさまざまな分野の事業者が、それぞれの分野で蓄積したノウハウを基に、課題やアイデアを出して、それがうまく結びつけば、地域としてもおもしろい産業活動ができるはずです。

テーマは与えられるものではなく自分たちで見いださなければなりません。情報をどう活用し、どのように実現していくかは、参加する企業、事業者の課題です。

未来産業創造おおさきには、その手助けをしてくれるコーディネーターがいるので、積極的に活用して早い段階で成果が生まれるのを心待ちにしています。

「未来産業創造おおさき」はスタートラインに立っただけで、すべてはこれから始まります。

未来産業創造おおさき　会員募集

●事業内容　企業間連携の推進・マッチング支援、農商工連携の推進、新産業・新製品の創出、カイゼン研修・人材育成事業の実施など

●会費　正会員＝入会金10,000円、年会費36,000円、賛助会員＝1口あたり30,000円

問 商工振興課新産業推進室 ☎23-7091